

# ドラミちゃんコーナー：使い方

## はじめに

それぞれの課の最終ページにある「ドラミちゃんコーナー」は、その課で出てきた文化項目について考えたり、言語についてさらに知識を深めることを目的としたものです。

日本文化についての洞察を深めたり、日本とその他の外国の文化を比較することによって、文化知識を増やし、文化分析能力を発展させます。また、日本語の特徴を理解したり、日本語と英語を比較する能力を伸ばすようにデザインされています。

それぞれの「ドラミちゃんコーナー」の最初には、その課のはじめの見開きマンガから1コマを取り出し、さらにこれまでに出版されたドラえもののマンガから1コマを加え、それを踏み台として、ディスカッションをしたり、リサーチをしたりするように作られています。

「見開きマンガの使い方」のところでも説明しましたが、見開きマンガには日本文化を知ることができるシーンが数多く出てきます。その意味を理解できない生徒もいれば、すぐにわかる生徒もいると思います。見開きマンガの使い方の1つとしては、学生に読ませて、言語、文化について疑問に思ったこと、不思議に思ったこと、理解できないことのリストを作らせることです。このリストをもとに、学生が知りたいこと、学生がわからないことを知ることができます。

そのリストの中にはおそらく「ドラミちゃんコーナー」で扱っていることも入っていると思います。この「ドラミちゃんコーナー」を効果的に使用することで、生徒の疑問を解決し、文化、言語の分析能力を高め、日本語学習の動機づけを高め、さらに日本語を学習しようという意欲を高めることができます。

「ドラミちゃんコーナー」の最後には、「話し合いのタネ」があり、3つの話し合い、研究のトピックがあげられています。ドラミちゃんの数が増えるほど、難しいトピックです。学生の興味、ニーズに応じて、3つのトピックのなかから適切なものを使うことができます。

## 第1章 (P26「宅配便」)

---

空港で荷物を送るのはなぜかという疑問から出発。  
アメリカにはないサービスが、なぜ日本にあるのかを考えさせる。

「宅配便」、「宅急便」で検索したページが役に立つ。

などが参考になる。例えば、

それぞれのサイトから「内容物の制限」に関するページを閲覧させ、1の問題を行う。

2番の問題は  
「生活を守る」、「マーク」、「サイン」などで検索したウェブサイトを参考。

### ◎話し合いのタネ

1. FedEx や UPS のサイトにアクセスし、上に示した日本のサイトの内容と比較させる。日本の宅配便のほうが、サービスが豊富なことに気づかせる。
2. 日本の携帯サービス、種類豊富な自動販売機、コンビニエンスストアのサービス、デパ地下（デパートの地下にある食品売場の俗称）で売られているお惣菜などを取り上げ、日本人が便利さを求め、業者もそれに応えようとしていることに気づかせる。例えば、自動販売機を取り上げた場合には、「自動販売機、自販機、写真」で検索したウェブサイトにある写真が使える。空港から荷物を送った場合、格安で、かつ即日、あるいは次の日には家に届けられるのは、日本の国土が大きくないこと、日本の交通網が発達していることも理由として考えられる。アメリカの国土と比較させ、このような点も生徒に発見させる。
3. これについては自由に生徒に意見を言わせる。サービスの行きすぎ、便利さの求めすぎが、社会にどのような影響を与えるかを考えさせる。

## 第2章 (P44 「日本の贈り物」)

---

他人の家を訪問する時に、お土産を持参する習慣について気づかせる。また、右側の写真のように、「つまらないものですが」「ほんの少しですが」、「お口に合わないでしょうか」のように言いながら、お土産を渡す習慣に気づかせる。

1 番では、お中元、お歳暮が1年のうちいつ贈られるものか、手土産はいつ誰が持っていくものかを理解させる。「お中元、お歳暮、手土産、おみやげ」で検索したサイトが参考になる。

「お中元、お歳暮、ランキング」で検索したサイトも参考になる。

2 番のディスカッションでは、上で使ったサイトのほか、「お中元、お歳暮、マナー」で検索したサイトも参考になる。ただし、ここに書かれていることが全ての日本人、場面に通用とするとは限らないので、例外がたくさんあることを理解させる必要がある。

### ◎話し合いのタネ

1. 自由にディスカッションさせる。日本の習慣からはずれたものが出てくる可能性があるかもしれないが、簡単に良しあしを決めるのではなく、ほかの生徒からも意見を聞く。
2. アメリカではどのような時に、贈り物をあげたり、お土産をあげたりするかを考えさせ、日米文化の共通点、相違点を考えさせ、そのうえで、なぜ日本人はいろいろな機会に贈り物をするのかを推論させる。クラスにアメリカ以外で生まれ育った生徒がいる場合には、その生徒の生まれ育った国ではどうだったかを説明させる。
3. お土産が形式化し、旅先などから自分で買って帰ってくるのではなく、カタログから注文して届けられることを確認する。そうまでして、お土産をあげることに、そのようなサービスが繁盛することに対する生徒の意見を自由に言わせる。正しい答えはないので、結論が出ないかもしれないが、日本のギフト文化の本質を考えるきっかけを作るものである。

## 第3章 (P62 「台風季節」)

---

日本は台風が多く来ることに気づかせる。また、台風には人の名前ではなく、番号がついていることに注意を向けさせる。

「台風、ニュース、被害」などで検索したサイトの記事を読ませ、台風がどのような被害をもたらすのかを理解させる。

1 番ではグラフ、地図に注意を向けさせ、それぞれ何を表しているのかを考えさせる。日本に来る台風の傾向を説明させる。台風の発生する場所がどこか、なぜそこで発生しやすいのかを考えさせる。

2 番目では、どこでも Web にあげられているサイトを使い、類似点、相違点を説明させる。

### ◎話し合いのタネ

1. 台風を経験したことがない者には、「台風の日」が何かわからないであろうから、「typhoon, eye」で検索したサイトの“eye”の部分の説明を読ませる。その後、この表現の意味を類推させる。この表現から、日本で台風がどのような意味を持っているか気づかせる。
2. この問題については、この章ですでに議論されているはずで、自分の意見を述べるのは難しいことではない。
3. 俳句について知らない者には、「haiku」で検索した俳句の英文説明ページや、下記のサイトなどを読ませる。  
国際俳句交流協会  
<http://www.haiku-hia.com/>

グループで、3つの句を読ませ、それぞれの作者のどのような考え、感情が表現されているか考えさせる。台風が日本人の生活にどのような影響を与えるか、また、台風と季節感について議論させる。上の1番のグラフの読み取りなどの活動も参考にさせる。

## 第4章 (P78 「学校へ行こう」)

---

大学の場面に、なぜ焼きそばを売る学生やゲームをする場所が出てくるかを理解させ、大学生にとっての学園祭、学校祭、文化祭の意義を理解させる。

1 番では、日本の学校が4月に新学年が始まり、3月に終わることを理解させる。アメリカや南半球のオーストラリアやニュージーランドなどは学校のカレンダーが異なることを理解する。

[http://www.tjf.or.jp/deai/contents/teacher/te\\_index.html](http://www.tjf.or.jp/deai/contents/teacher/te_index.html)

にある学校案内の pdf ファイルを印刷して、日本の学校の行事がいつあるかを理解させる。

学年の途中で夏休みがあり、その期間に勉強が途切れるのを防ぐために、日本では夏休みの宿題があることなどを理解させる。

4月に新学年が始まるシステムと、アメリカのようなシステムの、どちらがよいかを話し合わせる。

2 番では、

[http://www.tjf.or.jp/deai/contents/teacher/te\\_index.html](http://www.tjf.or.jp/deai/contents/teacher/te_index.html)

にあるクラブ活動の紹介、行事を読ませる。

[http://www.tjf.or.jp/deai/contents/teacher/te\\_index.html](http://www.tjf.or.jp/deai/contents/teacher/te_index.html)

[http://www.tjf.or.jp/deai/contents/teacher/te\\_index.html](http://www.tjf.or.jp/deai/contents/teacher/te_index.html)

も参考にさせる。

### ◎話し合いのタネ

1. [http://www.tjf.or.jp/deai/contents/teacher/te\\_index.html](http://www.tjf.or.jp/deai/contents/teacher/te_index.html)

[http://www.tjf.or.jp/deai/contents/teacher/te\\_index.html](http://www.tjf.or.jp/deai/contents/teacher/te_index.html)

[http://www.tjf.or.jp/deai/contents/teacher/te\\_index.html](http://www.tjf.or.jp/deai/contents/teacher/te_index.html)

などを参考にさせる。

2. 教師は

「高校生」、「放課後」、「部活」、「年中行事」などで検索したサイトを参考にできる。

生徒はどこでも Web にあるサイトを利用する。

3. 「道とは」、「道のつくもの」などで検索したサイトを参考にさせる。

## 第5章 (P96 「正月」)

---

正月が日本人にとっては一年でいちばん大切な行事であることに気づかせる。

日本にはどのような行事があるかを理解する。

[http://www.tjf.or.jp/deai/contents/teacher/te\\_index.html](http://www.tjf.or.jp/deai/contents/teacher/te_index.html)

[http://www.tjf.or.jp/deai/contents/teacher/te\\_index.html](http://www.tjf.or.jp/deai/contents/teacher/te_index.html)

などを参考にできる。

1 番ではすごろくをさせながら、日本の年中行事について理解させる。

すごろくについては「すごろく」で検索したサイトを使う。

### ◎話し合いのタネ

1. 季節に関係したもの、人間の成長に関係したものなどの答えが期待される。アメリカの年中行事との類似点、相違点を採させる。

2. 上にあげたサイトなどを利用させる。グループプロジェクトにして、グループごとに発表させる。リサーチプロジェクトのプレゼンテーションの評価のルーブリックを用意しておく。

- なぜ、日本でこのような年中行事が行われてきたかを推論させる。稲作の国として、米作りのスケジュールと年中行事の関係などを考えさせる。

## 第6章 (P116 「モーモー」)

---

日本語で使われる擬態語、擬声語について考えさせる。

1番では、擬声語とマンガを結びつけるもの。日本語がネイティブでなければ、感覚がつかめず、むずかしい練習である。

2番では、日本語と生徒の母語の擬声語と擬態語を比べるもの。日本語は世界の言語でも擬声語、擬態語が豊富なほうなので(豊富なのは日本語だけではないので、これが日本語のみの特徴とは言わないこと)、生徒の母語に当てはまる擬態語、擬声語がない場合もあることに注意。また、擬声語、擬態語の数が言語の優劣を決めるわけでもないことに注意。擬態語、擬声語が多いからプリミティブな言語というわけではなく、それぞれの言語がユニークな特徴を持っている。同じことを表現するのにも言語は別な方法を使うことに気づかせることが大切である。

「世界」、「言語」、「擬声語」、「擬態語」で検索したサイトなどが参考になる。

### ◎話し合いのタネ

- 英語の動物の鳴き声については、「英語」、「動物」、「泣き声」で検索したサイトなどが参考になる。
- ウェブなどを使ってリサーチさせる。
- 擬声語、擬態語を使った場合と、そうでない場合の例をいくつか出して、擬声語、擬態語の効果を考えさせる。

例)

- ・朝が来て、鶏が鳴いた。
- ・朝が来て、鶏がコケッココーと鳴いた。
  
- ・あたりはまったく静かだった。
- ・あたりはシーンとしていた。

## 第7課 (P134 「ことわざ」)

---

よく使われることわざについて考える

1番は辞書などを使って調べさせる。どのようなコンテキストで使われるかも調べさせる。上のマンガでは、かなり直接的な意味で使われているが、それ以外のコンテキストでも使われることに気づかせる。

2番はことわざの意味を考えさせるもの。

「世界」、「ことわざ」などで検索したサイトが役に立つ。

### ◎話し合いのタネ

- 英語のことわざのサイトは多数あるので、生徒が思い出せない場合にはそれらも利用してよい。
- 「proverbs」で検索したサイトが参考になる。
- 自由に意見を言わせる。

## 第8課 (P152 「コマーシャル」)

---

コマーシャル、広告のキャッチフレーズから文化要素を探させるのが目的。

1 番は学生の創造力を使わせる。

2 番はグループアクティビティーとして行う。評価のルーブリックを渡しておくのが望ましい。

### Rubrics

#### ◎話し合いのタネ

1. YouTube などでもコマーシャルが探せる時には、それを見ながら行う。
2. YouTube から日本のコマーシャルをいくつか見せ、アメリカのコマーシャルと比較する。
3. 自由に討論させる。また、レポートを書かせてもよい。

## 第9課 (P170 「外来語と和製英語」)

---

カタカナで書かれた外来語、和製英語について学習。

1 番は和製英語について考えさせる問題。  
「和製英語」で検索したサイトが参考になる。

2 番は和語、漢語、外来語による意味の違いを考えさせる問題。

次のような例文を与えて考えさせるとよい。

例)

- ・まぐろの握りをください。
- ・ツナサラダをください。

#### ◎話し合いのタネ

1. 「日本語」、「外来語」で検索したサイトを使う。
2. 自由に意見を言わせる。
3. 実際に雑誌や広告をクラスに持ってきて、どれくらい和製英語、外来語が使われているかを検証させるとよい。

## 第10章 (P188 「旅に出よう」)

---

日本人にとって旅行がどのような意味を持っているかを考えさせる。

1 番、2 番では、日本人が行きたい場所と、外国人が日本で行きたい場所の違いを探させることなどが目的。日本人にとって旅行がどのような意味を持っているかを考える第一歩。

#### ◎話し合いのタネ

1. 口頭発表させるか、レポートを書かせる。
2. 「旅の恥」、「旅の恥はかきすて」で検索したサイトを使う。
3. 自由に討論させる。  
「旅」、「意味」、「投稿」で検索したサイトの記事をディスカッションの補助として使ってもよい。